

イギリスの資格試験制度におけるGCSE職業科目の特質について

飯田, 直弘
九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門 : 助教

<https://doi.org/10.15017/7378060>

出版情報 : 国際教育文化研究. 10, pp.19-35, 2010-07-15. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



イギリスの資格試験制度における GCSE 職業科目の特質について

飯田 直弘

はじめに

本稿は、イギリス¹⁾において 2002 年に導入された GCSE 職業科目について、政策背景、内容・評価のプロセス、実施状況などの側面から、その特質を明らかにすることを目的とする。

イギリスでは、14 歳から 16 歳の段階（キーステージ 4）において取得可能な職業資格として、90 年代にパートワン GNVQ が導入された。このパートワン GNVQ は、2002 年以降、GCSE 職業科目と置き換えられることとなり、今後も段階的に新しい科目が導入される予定である。このように、できる限り早期の段階で生徒に職業資格を取得させる機会を与えるという意図が具体的な政策として表れている。それでは、このような政策意図はどのような背景に基づいているのだろうか。また、GCSE 職業科目は従来のパートワン GNVQ/GNVQ とどのような点で異なり、資格試験制度全体においてどのように位置づけられるのだろうか。

以上の問いに答えるために、本稿では、政策文書や報告書を用いて GCSE 職業科目の導入背景や政策的コンテキストについて明らかにし、また試験のシラバスや報告書等を用いて内容・評価のプロセスと実施状況の側面からその特質を明らかにする。また、以上を踏まえ、今後の課題等について検討する。

1. 政策背景

1-1 GNVQ/パートワン GNVQ の導入

イギリスでは、1992 年に、GNVQ とよばれる新しい職業資格を導入された。この資格の導入は、1991 年の白書『21 世紀における教育と訓練』に基づくものであるが、そこには「教育的」要求と「経済的」要求の 2 つの点が背景として存在したと考えられる。

「経済的」要求とは、NVQ が個別の職業に特化した資格であるのに対し、産業構造の変化が激しい現代において、職務内容の変化により、特定の専門技能に適応した仕事がなくなってしまう危険性があり、そのため、「将来における技術革新に的確に対応できるような基礎的な技能・能力を養成することが、特に将来の労働力である若年者に対しては、重要な政策課題として中央政府の政策においても認識された」²⁾ことを意味する。『21 世紀における教育と訓練』においても、16 歳から 19 歳の教育・訓練の改善により、国際競争力の強化に貢献できる労働力の育成が強調された。また、Wolf によれば、1980 年代において、労働力における職業資格取

得者の増加という経済的要請により、資格「ジャングル」が職業資格の取得を妨げていると問題視されるようになった³。その結果、GNVQは、RSAやBTECなどの資格付与団体の主要な資格を全国的な枠組みに統合する方法として構想された⁴。

また、「教育的」要求とは、GCSEで低い成績をおさめた生徒に対するAレベルにかわるフルタイムのコースが強く求められていたことを意味する⁵。これについては、(パートワン)GNVQと現在のGCSE職業科目が低学力の生徒のモチベーションを向上させる目的をもっている点を考慮すれば、容易に理解できる。この点に関連して、新しい職業資格の注目すべき特徴として、高等教育への代替ルートを提供するものであるとされた点が挙げられる。

GNVQは1992年に試行的に導入され、3年にわたって段階的に実施されていった。

GNVQは、以下のような特徴をもつ資格である。

- ・ 当初は、上級⁶、中級、基礎レベルが存在した。
- ・ 主にフルタイムの16歳から19歳までの生徒を対象とする（パートワンGNVQは、16歳前の生徒を対象とする）。
- ・ 広い職業に共通する知識や技能を育成することを目的とする。また、キースキルに密接に関連する教育を提供する。
- ・ 科目は、「芸術とデザイン」、「ビジネス」、「建築と建造環境」、「エンジニア」、「健康と社会介護」、「ホスピタリティとケータリング」、「情報コミュニケーション技術」、「土地と環境」、「余暇と観光産業」、「製造」、「メディア：コミュニケーションと制作」（中級レベルのみ）、「舞台芸術」、「小売と配送サービス」、「科学」がある。

1996年には、John Capeyによって評価に関して多くの検討がなされた。彼の勧告は、学校と資格付与団体の評価の負担を軽減させることであった。また、2000年には、資格からキースキルを切り離すことにより、受験者はキースキルに失敗してもGNVQを落第することはなくなった。それに加えて、評価に関して、受験者は資格を獲得するためにすべてのユニットを合格する必要がなくなった。その後、2000年7月に、GNVQの廃止が公表されることとなる。

以上に述べてきたGNVQの導入後、主に14～16歳の2年間のコースで取得できるパートワンGNVQが新たに導入されることとなった。このパートワンGNVQは、1995年9月に最初のコースが試行的にスタートし、その後、2003年まで続いた。パートワンGNVQの特徴は、以下の通りである⁷。

- ・ 3つのユニットで構成される
- ・ 様々な方法で生徒が達成を示すことを要求する
- ・ 外部評価と同様に内部評価を利用する
- ・ 生徒が積極的に学習を計画・実行するよう促す
- ・ 7つの科目において基礎レベルと中級レベルで利用可能である
- ・ 労働に関連する技能を開発する
- ・ 職業領域に関連する知識を獲得する
- ・ 職業領域における労働が意味するものについて見識を得る

- ・ 職業領域において組織がどのように機能するのかを理解する
- ・ 自身の労働を通して、職業領域に関する情報を調査・活用する
- ・ 自立心を育成し、多様な学習の形式を経験する
- ・ 自身の労働の計画と実行により大きな責任をもつ

また、実施科目は、①芸術とデザイン、②ビジネス、③エンジニア、④健康と社会介護、⑤情報コミュニケーション技術、⑥余暇と観光産業、⑦製造となっている⁸。パートワン GNVQ には、中級及び基礎の 2 つの水準が設けられている。中級は GCSE のグレード A～C まで、そして基礎は GCSE のグレード D～G に相当するとされた。また、パートワン GNVQ は、GCSE2 科目分として換算される。

1-2 GNVQ の廃止と GCSE 職業科目の導入

以上のような GNVQ の廃止に伴い、1995 年に導入されたパートワン GNVQ はその後廃止され、2002 年 9 月から、パートワン GNVQ の後継資格として、新たに GCSE 職業科目が導入された⁹。

パートワン GNVQ は、2002 年に最後のコース（1 年間）がスタートすることとなった。これは、基礎・中級 GNVQ の廃止に伴うものであるが、パートワン GNVQ は GCSE 職業科目に置き換えられることになった。その一方で、6 ユニットの GNVQ は、当初は 2003 年 8 月に撤退することとなっていたが、さらなる議論の結果、2002 年 7 月には当局が適切な代替資格を確定するまでは継続実施されることが公表された¹⁰。その後の最終アップデートにおいて、どの資格付与団体においても、最後の 2 年間のコースの授業開始は 2003 年～2005 年 9 月、最後の試験は 2005 年～2007 年夏、最後の証書授与は 2006 年～2008 年 3 月とされている¹¹。

この新しい資格の導入について、当時の教育雇用大臣であった David Blunkett は、以下のように述べている。

・・・近年のサーベイによれば、技能不足の 40%が職人・技術者タイプの職において見出され、職に特化した、労働に基礎を置く訓練を通して得られる高度な技能が求められていることが明らかとなった。製造業においては、新しい技術と多様な職務実践が必要とされ、技術者と職人に対する全般的な要求は弱くなってきているが、これらの労働者がより多くの、そしてより高度な技能を身につけることの必要性は増大している。職業 GCSE は、我々がこれらの技能不足の問題に取り組むために導入しつつある職業的な道筋にとって極めて重要な段階となるだろう¹²。

ここでは、特に経済・産業の観点が強調されていることがわかる。また、GCSE 職業科目は、職業資格に明確性と一貫性をもたらし、14 歳から 16 歳の生徒の選択肢を拡張するための方策として考えられていた¹³。

以下では、主要な白書・緑書・戦略文書・報告書をもとに、GCSE 職業科目が導入・推進さ

れる政策背景について検討する。

まず、2001年9月に出された白書『成功を達成する学校』(Schools: Achieving Success)では、「高い質」を達成し、若者に職業的選択を広く認知させ、評価の平等を促進することを提案した¹⁴。そのため、2002年のGCSE職業科目の導入は、白書における職業科目に関する提案の重要な項目の一つであった。この新しいGCSEは、明確な焦点をもち、学習者個人の必要により関連した労働に関連した学習に支えられている。また、そこには、他の利害関係者との効果的パートナーシップなしに学校だけでは、リソース、専門的知識、キャパシティの点で、職業コースを提供するには不十分である可能性があるという認識が示されている。そのため、政府は、学校、継続教育カレッジ、訓練機関、雇用者の間でより協働的な事業が行われることを期待している。

また、翌2002年2月に出された緑書『14歳から19歳の機会の拡大と水準の向上』(14-19: Extending Opportunities and Raising Standards)では、生徒が適切なペースで学習でき、そして個人に焦点を当てた柔軟なカリキュラムを促進することが提案された。それにより、キーステージ4において職業教育を取り入れることが目指された。その一環として2002年から開始された「14歳から16歳の生徒のための柔軟性の増大に関するプログラム」(Increased Flexibility for 14 to 16-Year-Olds Programme、以下IFP)は、より多くの生徒がGCSE職業科目を含む職業資格を取得することを狙いとしていた¹⁵。

2003年には、白書『14歳から19歳の機会と卓越』(14-19: Opportunity and Excellence)が発表された。ここでは、教育への参加に関するOECD加盟国における順位(29カ国中25位)が、ここでも問題にされており、14歳から19歳の生徒のための一貫した職業教育の開発と促進に関する戦略を提示した。この白書においては、先の『成功を達成する学校』において示された、一貫した14歳から19歳までの段階の達成などの計画がさらに拡大されている。白書は、14歳から16歳のプログラムにおいて、職業に関連した学習と企業の学習を提供することを学校に要求した。GCSE職業科目に関しては、先に述べたIFPのコンテキストにおいて、GCSE職業科目の導入と開発が資格カリキュラム当局に課された。IFPは、継続教育カレッジ、学校、地方教育当局、雇用者のパートナーシップにより実施され、14歳から16歳のカリキュラムの幅を拡張し、16歳以後の教育・訓練にとどまる者の割合を引き上げるための国家的推進力の一部として、一連のGCSE職業科目がキーステージ4の段階に導入された¹⁶。

その後政府は、2004年6月に戦略文書である『教育技能省：子どもと学習者に関する5カ年戦略』(Department for Education and Skills: Five Year Strategy for Children and Learners)を出した。この戦略文書は、16歳の生徒のGCSEでの結果などにおいて一定の成功を収めたことを挙げる一方で、14歳から19歳において国際的にみたときの弱さ(OECDの調査において、17歳で教育と訓練にとどまる者の割合が30カ国中27位)がはっきりと表れていることについて言及した¹⁷。また、GCSE職業科目がポピュラーになりつつあるとしている¹⁸とした上で、アカデミックな学習、職業的な選択、そしてそれらを結合したルートを含む柔軟な学習ルートにより幅広い選択を若者に提供すること¹⁹、「雇用者の関与を劇的に増大させ」²⁰、職業的選択の質と地位の向上の徹底を図ることにより、アカデミックルートと職業ル

ートが同等の価値をもつものと考えられるようにすること²¹などが目標として掲げられている。

カリキュラムの個人化と選択の拡大にコミットするための一つの方策として、すべての学校における職業的選択の拡張が目指されている。これは、生徒の多様な必要や能力と関心に合うための幅広い機会を提供し、学校が雇用者の必要により効果的に応え、雇用者の関与を促進することを確かなものにすることを意味する。これらの発展は、全体の達成を向上させるのと同様に、生徒のモチベーションを向上させ、16歳以後の教育と訓練への参加を促進する。これを支援するための方策として、GCSE 職業科目の導入が位置づけられ、また、14歳からの職業的学習が強調されている。これに関連して、学校、カレッジ、訓練機関において、職業科目を学習する14歳から16歳までの者の数を劇的に増加させることが目標として挙げられている（2007-2008 までに18万人以上）²²。14歳の時点での決定に追い込まれないように、途中で方向（進路）を変えることのできる柔軟性について提供するともある²³。

以上にみてきたように、GCSE 職業科目は、全国資格枠組みにおける職業資格とアカデミック資格の同等性を増進させ、それにより16歳以後の教育と訓練への進路を選択の幅を拡大するねらいをもつといえる。またその背景には、イギリスの経済的地位を向上させ、またその基盤として16歳以後の教育と訓練に参加する者の割合を引き上げるという政策課題が存在する。このような政策課題は、96年の保守党の白書においてもみられる。しかし、これらの政策の強調の度合いは、2000年以降の労働党の政策において、以前よりも非常に強いものとなっている。そのため、パート1GNVQとGCSE 職業科目は政策的コンテキストにおいてベクトルを一にするが、その強さにおいて異なる側面をもつ。

2. GCSE 職業科目の特徴

2-1 GCSE 職業科目の目的と主な特徴

当時の教育技能省が作成した各種ガイダンス資料によれば、GCSE 職業科目の主要な目的として、以下の5点が挙げられている²⁴。

- ・ 学習者を産業とビジネスの広い部門に導入する
- ・ この部門の理解、そしてこの部門で普及している概念と理論の理解を促進する
- ・ この部門で活用されるいくつかの技能を開発する
- ・ 労働の世界についての生徒の理解を促進する
- ・ 学習者が、21世紀の労働に必要な技能、独立した学習に必要な技能の獲得に取り組むことを可能にする

このような目的に加え、GCSE 職業科目は、他のGCSE（アカデミック）科目と同様の水準と厳格性を持ち、それによって、すべての生徒にポジティブな選択を提示するものであると述べられている²⁵。

その他のGCSE 職業科目の主な特徴としては、以下の点が挙げられる²⁶。

- ・ 主に14歳～16歳の生徒を対象とする
- ・ GCSE2科目分に相当する（‘Double Awards’）

- ・ GCSE 職業科目（もしくはパートワン GNVQ）は GCSE2 科目分に相当するため、他の科目の 2 倍の教授時間をとるべきものとされている²⁷。
- ・ 成績評定は、GCSE と同様である（A*A*～GG、Unclassified）
- ・ 全国資格枠組みのレベル 1（基礎）とレベル（中級）をカバーする
- ・ 各科目は、3 つのユニットによって構成される
- ・ 評価は通常、3 分の 1 の外部評価（1 つのユニット）と、3 分の 2 の内部評価（2 つのユニット）によって構成される
- ・ 資格の全体の評定は、各ユニットの結果の合計によって決定される
- ・ 特定の職業に関するものではなく、幅広い職業領域への導入としての価値をもつ

以上の点は、パートワン GNVQ とほぼ同様のものといえる。

2003 年当初は、①「応用芸術・デザイン」、②「応用ビジネス」、③「エンジニア」、④「健康と社会介護」、⑤「応用情報・コミュニケーション技術」、⑥「余暇と観光産業」、⑦「製造業」、⑧「応用科学」の 8 つの科目で試験が実施されていた。さらにその後、上記の 8 つの科目に加えて、「建築と建造環境²⁸」、「舞台芸術」の開発が進められた。その結果、現在では、「応用舞台芸術」を含めた 9 科目が実施されている²⁹。

教授方法と評価の側面については、上述のように、他の科目の知識・理解・技能に加え、職業的コンテクストにおける学習が重視されるため、他の GCSE 科目に比べ、特異なものとなっている。まず、教授（学習）方法については、職場体験、プロジェクトワーク、情報収集の手段としてのインターネットの活用、ケーススタディとビジネス関連資料の活用、ロールプレイと職場シミュレーション、人々が職場で行っている仕事の内容と、彼らがもつ資格や経験した訓練の調査、産業界からの専門家の補助による小事業への従事、などの点が強調されている³⁰。次に、評価については、内部評価（ポートフォリオ／コースワーク）と外部評価が実施されており、各資格付与団体が作成するシラバス³¹にその詳細が記載されている。内部評価については、内部のポートフォリオ評価に関する学校の役割、モデレーション³²の方法などが規定されており、外部評価については、例えば、1 時間半の筆記試験もあれば、指定された 10 時間分の課題³³によって構成される場合もあり、各科目で多様なものとなっている。

ガイダンス資料には、その後取得する可能性のある資格として、AVCE（職業 A レベル）、取得した GCSE 職業科目と密接に関連する科目における AS レベルもしくは A レベル、NVQ などの資格を列挙しており、さらに、その後の大学やその他の高等教育機関への進学の可能性についても示唆している³⁴。

2-2 GNVQ と置き換えられる資格と資格取得後の進路

パートワン GNVQ の後継資格として GCSE 職業科目が導入される一方で、6 ユニットの GNVQ に関して、資格カリキュラム当局は、既存の様々な資格を代替資格として位置づけた。この点については、GNVQ の廃止に伴って、レベルやサイズの点から様々な資格がそれと置き換えられた³⁵。この「マッピングレポート」の詳細については、資格カリキュラム当局もしく

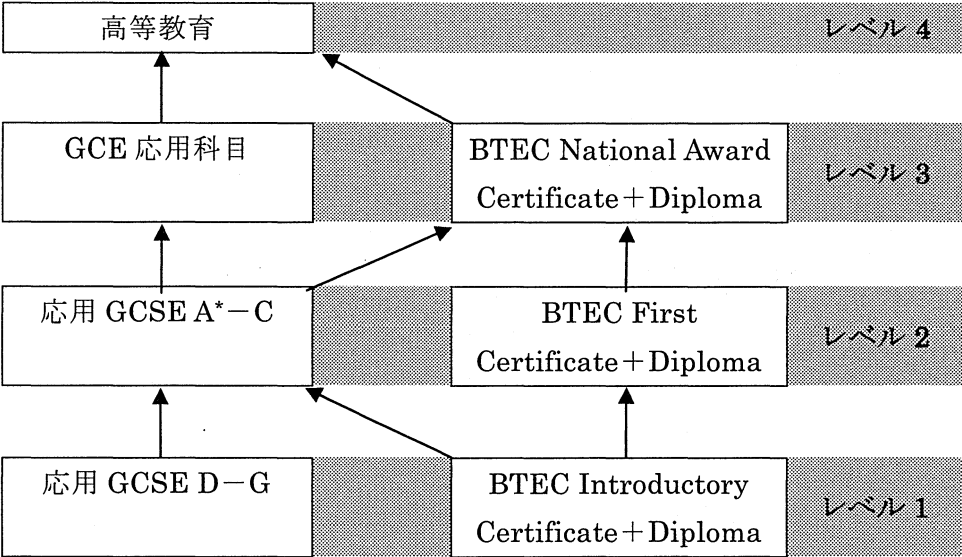
は各資格付与団体が公表している³⁶。また、今後も継続的にマッピングを行っていくとしている³⁷。ただし、GNVQの後継資格は、2つの意味で多様であることに注意しなければならない。それは、①6ユニットのGNVQの後継資格として提示されたものとパートワンGNVQの後継とされたものの間に差異が存在する点、②6ユニットのGNVQの後継資格は多数にわたり、さらにそのなかには、GNVQよりもサイズが小さく、専門化したものが含まれる点³⁸である。また、問題点としては、これらの代替資格において、GNVQとは異なる評価の取り決めがなされている場合があり、評価の質と一貫性を維持するために、いくつかの資格は各資格付与団体の認可を得なければならないという点が挙げられる³⁹。さらに、指針とされる学習時間についても、代替資格間で非常に多様なものとなっている点にも注意しなければならない。

次に、GCSE 職業科目取得後の進路について⁴⁰、資格カリキュラム当局によれば、GNVQの代替資格は、GNVQと同様の進路の機会を提供するとしている⁴¹。しかしその一方で、何らかの代替資格取得後の生徒の進路が基礎・中級GNVQの取得後のものとは異なる可能性がある点についても指摘されている⁴²。

代替資格の計画・導入の経験を共有するために行われた先駆的学校との協働事業⁴³によれば、基礎レベルにおいて、相対的に代替資格が不足している点、何らかの代替資格取得後の生徒の進路が基礎・中級GNVQの取得後のものとは異なる可能性がある点、生徒はよく知っていて達成に自信のある資格を選ぶ傾向がある点、などが問題点・課題として挙げられていた。また、それらの発見をふまえて、先駆的学校は、生徒が選択の幅を広げ、最も明確なものだけでなく、一連の進路について熟考することを奨励されるべきだというメッセージを強固なものとするなどなどが求められた。この点に関して、本文中では「柔軟性」ということばで表現されているが、複雑な状況が生徒のより良い選択にネガティブに働く可能性があることは否定できない。

以上のような状況のなかで、例えば、Edexcel は、以下の図にあるような資格取得の進路についての資料を作成している。ここでは、相互に行き来できる関係が強調されている。

図 1：Edexcel による資格取得の進路の一例⁴⁴



Edexcel は、ここで紹介したもの以外にも、各科目に対応したもの、キーステージ 4 におけるルートの例など、様々な資料を提供している⁴⁵。

2-3 実施状況

導入当初の実施状況については、教育水準局の報告書において、40%の授業で達成の水準が優もしくは良とされ、40%以上の授業で教授の質が優もしくは良とされる一方で⁴⁶、例えば以下のような問題点が調査結果として挙げられている⁴⁷。

- ・ ポートフォリオの質は非常に多様である。また、教師は評価について不確かであり、生徒のポートフォリオのベンチマーキングに関して自信をもっていない。そこには、評価に関する訓練とガイダンスの不十分さが存在する。
- ・ 新しい GCSE の多くの学校では、職業関連コースの開発はほとんど行われていない。
- ・ あまりにも多くの生徒が、教師と同様に、新しい GCSE を取得した後の発展のルートに関して、不確かである。
- ・ 以前にカリキュラムのなかにビジネスとのつながりを取り入れた経験のない学校は、その確立において大きな困難を伴っている。

また、この報告書における他の重要な発見としては、新しい GCSE と従来の GCSE の間の評価の平等 (parity of esteem) に関して、GCSE 職業科目のコースが低い成績の生徒だけを対象とした場合より、多くの割合の生徒を対象とした場合の方が、それがより多く認められるという点が挙げられる⁴⁸。

最近の調査としては、資格カリキュラム当局の委託により MORI (Market and Opinion Research International) が行った量的サーベイがある。この報告書⁴⁹によれば、多くの教師が、以前 GNVQ を教えていた経験があり、そのため GCSE 職業科目を教授するための準備ができしており、2005 年の試験の結果において生徒が期待よりも好成績を収めたと感じているとする一方で、科目間での格差や必要な授業時間を満たしていない点などについて指摘している⁵⁰。そのため、GCSE 職業科目の授業時間といくつかの科目に配分される時間を制限する要因についてさらに調査し、教師の専門的能力を開発するために焦点を絞って支援を行っていく必要があるとしている⁵¹。

その後、2007 年には、資格カリキュラム当局により、GCSE 職業科目の研究プログラムの一環として開催されたセミナーの報告書⁵²が公表されている。このセミナーの主要な目的は、資格カリキュラム当局が委託した GCSE 職業科目の実施状況に関する 2 つの報告書⁵³について、利害関係者が検討を行うことであった⁵⁴。そこでは、以下のような問題点・課題が指摘されている⁵⁵。

- ・ 適切な時間配分、教師の訓練、産業界とのパートナーシップの構築の点で、学校の方針の差異に明確な判断が求められる。

- ・ 内容があまりにも高度であるか、もしくは非常にアカデミックであるという点で、科目に特化した問題が存在するかもしれない。
- ・ 教師とセンターに対して必要なリソースを確保する。
- ・ GCSE 職業科目が低い成績の生徒のものと考えられないようにしなければならない。
- ・ 情報技術をより活用する。
- ・ 資格の理論的根拠を明確にし、それらをより特有のものとする必要がある。
- ・ 現在の資格はしばしば、活動に関するあまりにも多くの筆記とあまりにも少ない応用学習が存在する。
- ・ 選別的なものを含むすべての種類の教育機関によって採用される必要がある。
- ・ 新しく導入されるディプロマは、GCSE 職業科目を阻害するものとなってはならない。
- ・ GCSE 職業科目は重要な役割を果たす。

その一方で、資格カリキュラム当局委託の報告書と今回のセミナー報告は、全体として、かねてより懸念されてきた成績評定の水準に関する問題については、ポジティブな見解を示している⁵⁶。

3. GCSE 職業科目の特質と課題

3-1 共通点と相違点

本節では、前節までに述べてきた内容から GCSE 職業科目やそれ以前のパートワン GNVQ /GNVQ の共通点と相違点に焦点をあて、また、資格試験制度全体における両資格の位置づけについて検討する。

まず、(パートワン) GNVQ と GCSE 職業科目の共通点については、導入の目的、対象とする年齢段階、科目、教授・評価方法などの点から、両資格は共通点が多いといえる。

次に、(パートワン) GNVQ との相違点に関連して、第 1 に、多くの学校では、GCSE 職業科目は GNVQ に適切に取って代わるものだと考えていなかったという調査結果がある⁵⁷。その理由としては、GCSE 職業科目が過度にアカデミックであり、職業的要素が不足しているといった点が挙げられている。すなわち、より実践的な科目（応用情報コミュニケーション技術、製造、エンジニアなど）で筆記課題が重視されるのである⁵⁸。また、同じ調査において、シラバスに関して、そのうち特に評価の項目に関して、GNVQ よりも職業的要素が少ないという教師の批判が存在することがわかった⁵⁹。これは、筆記や専門用語の使用に重点が置かれ、その一方で関連する技能を発達させる機会に乏しいことを意味する⁶⁰。

以上を踏まえ、ここでは中級 GNVQ のビジネスとそれに対応する GCSE 職業科目に焦点を当てて、GCSE 職業科目と GNVQ のシラバスについて検討する。

<ビジネス⁶¹>

新しく導入された GCSE 職業科目においては、GNVQ ではなかった「評価計画」(Scheme of Assessment)「評価目標」(Assessment Objective) が設定され、さらにユニットごとに「評

点グリッド」(marking grid)が存在し、評価方法・プロセスの点で、GCSE 職業科目ではより厳格性が求められていると考えられる。

①「評価計画」⁶²

ユニットごとの評価の配分(各 33.3%)、評価対象となる課題などが記載されている。

②「評価目標」⁶³

生徒が証明することを求められる知識・技能・理解であるとされる。「応用ビジネス」においては、3つの目標が設定されており、それぞれの目標がどのユニットにおいてどれほどの割合で評価されるのかについての記載がある。「ビジネス」においては、知識・理解に関する目標がどのユニットにおいても最も割合が高い(48～53%)。

③「評点グリッド」⁶⁴

内部評価されるユニットには、「評点グリッド」がある。それは3つの「評点群」(marking band)に分かれており、課題と「評価目標」の関連でどのように評点を与えるのか(評点の配分)を示している。また、それに付随する「評価基準」(assessment criterion)が詳細に記載されている。

第2の相違点は、成績評定のシステムの違いが存在する点である。GCSE 職業科目はレベル1と2における達成ごとに異なる証書認定を行うことはないが、GNVQはそれぞれのレベルで、優・良・可が与えられる。この点について、生徒の部分的な達成について評価する機会がないことを批判する教師が存在する⁶⁵。

第3に、ある調査において、訪問した多くの学校でGCSE 職業科目が、低学力の生徒だけでなくすべての生徒への選択肢の一つであり、すべての同一年齢集団に影響を与えられている点、GNVQとは重大に異なる点であるとされた⁶⁶。

さらには、各資格付与団体(awarding bodies)間の相違点にも注意が必要である。イギリスには、Edexcel、AQA、OCRという3つの資格付与団体が存在する。この3つの資格付与団体間では以下のような相違点が存在する。

- ・ 内部評価と外部評価の取り決めは、各資格付与団体間で差異がある⁶⁷。
- ・ 各科目の内容はすべての資格付与団体で同様のものとなっているが、教授と評価については、各資格付与団体は自身のアプローチを開発している⁶⁸。
- ・ 資格取得後の進路の開発について、多様な取り組みがなされている。
- ・ 代替資格の「マッピングレポート」は、各資格付与団体に特化した資格が割り当てられることが多い。
- ・ 実施科目についても、GNVQにおいて「建築と建造環境」がOCRにおいて提供されなかったように、各資格付与団体間で若干の差異がある。現在のところ同科目はEdexcelによって試行されている。

3-2 資格試験制度全体におけるGCSE 職業科目の位置づけ

2005年春の時点でのキーステージ4における職業資格取得者の割合は、GCSE 職業科目が

54%、GNVQ が 33%弱、NVQ を含むその他の職業資格が残りとなっている⁶⁹。全体に占めるキーステージ 4 での職業資格取得者の割合は少ないが、将来的に、資格枠組みもしくは別の枠組みにおいて柔軟である一方で「シンプル」な資格システムが開発された場合、キーステージ 4 の段階における GCSE 職業資格取得者数は大きく増大するかもしれない。そして、そのときには、GCSE 職業科目の果たす役割は非常に重大なものとなっているだろう。

その一環として、他の GCSE 科目や他の資格との関係について、再検討の必要がある。例えば、上述の「応用ビジネス」のシラバスにおいては、GCSE における他のビジネス科目にエントリーすることのないように勧告がなされている。このような状況を考慮すれば、各資格の価値・意義は、評価方法のスタンスの違いやその資格に特化した何らかの目的だけにあるのではなく、それが資格枠組み全体のなかで、生徒の一連のキャリア形成に関連して、どのように他の資格とリンクするのかに関しても存在することがわかる。

3-3 批判、問題点・課題

GCSE 職業科目に関する労働党の一連の政策に対して、保守党系のシンクタンクである Civitas の報告書では次のような批判が出ている。

2-1 でも述べたように、現在の労働党の主要な教育課題の一つとして学力向上が挙げられる。キーステージ 4 における職業コースの設置は、政府の（学力向上の）目標と同等性のシステム（リーグテーブルにおける GCSE のグレードを向上させる可能性がある）の関係のために生じたものである⁷⁰。原則として、この同等性のシステムは、生徒の選択の幅を広げるという点、また職業資格をアカデミック資格と等価にするという点でポジティブである。しかし、実際には、このどちらとも達成されておらず、同等性のシステムは、アカデミックな目標を達成するために利用され、職業教育と技能をより一層第 2 の地位に落としめている⁷¹。

報告書において指摘された具体的問題点としては、①試験でのパフォーマンスの向上が学習レベルの向上につながっていない点、②パフォーマンスでの格差を狭めるのと同時に、選択の幅の格差を広げている（学力レベルの低い学校はアカデミックカリキュラムを収縮して同等としてみられる職業資格のコースを拡充するため、最も恵まれない生徒の選択の幅を逆に狭めている⁷²）点、③授業時間の合計や難易度などの点で職業資格は GCSE よりも低いレベルにあるにもかかわらず、GCSE のパフォーマンスを上げるために学校が GCSE と職業資格を同等であるとした点、④職業資格は職業と関連した学習、实际的（プラクティカル）な学習をその「売り」としているが、現実には職業領域との結びつきが希薄であり、また要約的な知識を学習するだけで实际的とはいえない点⁷³が挙げられている。

②に関しては、これがエスカレートすれば、以前のグラマースクールとセカンダリーモダンスクールの分離に類似したものが出現する可能性があるとしている⁷⁴。また、③の難易度に関しては、例えば、先述のように、GCSE 職業科目は 3 分の 2 が内部評価によって評価される点、またすべてのモジュール（ユニット）をクリアしなくても合格できる点などが挙げられる。報告書ではこの点に関して Mansell（2007）の研究を取り上げ、（2005 年に）「最も改善した」学校のトップ 10 校のうち 6 校が、GNVQ がなければこのような達成はなかったことを認めた

ことについて指摘している⁷⁵。

以上を踏まえた上で、報告書における提案には、①GCSEの段階では、GCSE職業科目も含めた職業的学習を入れるべきではないこと、②14歳の段階で提供されるものを理解するのは複雑であり、生徒を含むすべての者にとって明瞭なシステムをつくるべきであること、③GCSEのリーグテーブルを真に透明化し、さらに評価の平等により、職業資格をアカデミック資格に埋没するものではなく、自身の力で立つものにしなければならない。などが挙げられている⁷⁶。

以上に挙げたような問題点のほかにも、GCSE職業科目にはさまざまな問題点・課題が存在する。

第1に、パートワン GNVQ は GCSE 職業科目とされているが、通常の GNVQ は各資格付与団体が提供する種々の資格に置き換えられている。そのため、キーステージ 4（14～16 歳）の段階で取得した GCSE 職業科目とその後予定される資格との間で齟齬が生じる可能性がある。完全に GNVQ が廃止されつつある現在において、GCSE 職業科目からその後どのような職業資格取得につなげていくのかという点が大きな課題といえる。しかしながら、マッピングレポートにおいて、非常に少ない代替資格しか記載されていない科目がある。このように、代替資格が適切なものであるかどうか、議論の余地が残っている。この点に関しては、GNVQ 廃止の初期段階から、調整機関がこの適切性を評価するための何らかのメカニズムを開発することが課題として挙げられていた⁷⁷。

ディプロマに関して、資格カリキュラム当局の報告書も、GCSE 職業科目を阻害する可能性について示唆している。また、各資格の理論的根拠を明確にする必要があると述べている。逆にいえば、資格が複雑化し、互いの境界線が曖昧な場合があるということの意味するのかもしれない。このような資格システムの複雑性を緩和する方策を立てなければ、生徒の職業的学習の機会は、制限されたものになるだろう。すなわち、一貫した職業教育の実施のために、職業資格の数や範囲の合理化の必要性がある⁷⁸。

第2に、評価に関する問題が存在する。生徒や親に向けた GCSE 職業科目のガイダンス資料には、GCSE 職業科目を取得するかどうかを決定する際に考慮すべき点として、取得予定のすべての科目を通したコースワークの量が挙げられている⁷⁹。また、資格カリキュラム当局の調査報告書には、多くの教師がコースワークの量が過大であり、非現実的な要求をしていると考えている点が明らかにされている⁸⁰。またその一方で、上述の Civitas の報告書は、このコースワーク（内部評価）により職業資格は同じ水準のアカデミック資格よりも難易度が低いと指摘している。そのため、この評価に関する問題は、キーステージ 4 における GCSE 職業科目を含む職業資格の今後の発展にとって非常に重要な点であるといえる。

第3に、早期選別の問題に関して、14～16歳の職業コースであるパートワン GNVQ をさらに促進するものとしての GCSE 職業科目の位置づけを考慮すれば、そして将来的に GCSE 職業科目取得者が増加すれば、14歳の段階でその後の進路（職業トラック）を決定することとなるのではないかという批判が出ることが予測される。この場合問題なのは GCSE 職業科目にエントリーする低学力層である。彼らが消極的にこの資格を選択するのであれば、そこにはいくらか柔軟なシステムが構築されていようとも、その後職業トラックから他のトラックに移る可能

性は低いと考えられる。

第4に、地理的リソースの問題について、地理的に不利な状況にある学校は、効果的なカリキュラムの展開が困難である可能性があり、近くに協働する企業や継続教育カレッジ⁸¹がない場合、特に問題である。この点について、都市と農村での職業資格の達成の格差に関する調査結果が存在する⁸²。また、地域の産業が取り組みに密接に関わってくるので、地域ごとにカリキュラムの構築や実践に差異が生じることが考えられる。この問題は、上述の MORI の報告書においても強調された、教師が行う授業の「産業とのつながり」と「職業的応用」に深く関係しており、そのため GCSE 職業科目の今後の発展にもかかわっているといえる。すなわち、生徒が GCSE における従来の科目よりも好成績を収めた重要な理由として、教師は生徒のモチベーションと関心を挙げているが、これは「産業とのつながり」と「職業的応用」によって促進されるとされる⁸³。

おわりに

以上のように、GCSE 職業科目は GNVQ とは導入背景などの点で共通点の多いことがわかったが、その一方で相対的にアカデミックに傾斜している点や評価のプロセスなどの相違点、また GNVQ とは異なる特質による固有の問題点も存在することがわかった。最後に、今後の展開について検討する。

第1に、2006年の PISA で大幅に順位を落とした（リーディングにおいて7位から17位、数学において8位から24位、科学において4位（2001年の結果）から14位に転落した）ので、今後の政策に大いに影響する可能性がある。

第2に、離学年齢の引き上げは、14歳から16歳の職業資格の取得にどのように影響するのだろうか。2008年9月に中等学校に進学する生徒は、ほとんど確実に、17歳へと引き上げられた離学年齢を経験する最初のコーホートである。2013年までに17歳、2015年までに18歳へと、離学年齢を引き上げるための法案が議会で可決される予定になっている⁸⁴。

第3に、6単位の GNVQ の代替資格の「ジャングル化」の問題は、GCSE 職業科目の今後の展開に非常に大きな影響を与えると考えられる。この点に関連して、「資格単位枠組み」（Qualifications and Credit Framework）がどのように影響するのかについて検討する必要がある。

¹ 本稿ではイングランドを指す。

² 柳田雅明（2004）『イギリスにおける「資格制度」の研究』 pp. 135-136.

³ Wolf, A. (2002) 'Qualifications and Assessment', Aldrich, A. (ed.), *A Century of Education*, RoutledgeFalmer, p. 218.

⁴ Smithers, A. (2000) 'The Qualifications Framework', Smithers, A. and Robinson, P. (eds.), *Further Education Re-formed*, Falmer Press, p. 63.

⁵ Wolf, A., op. cit., p. 220.

⁶ 2000年9月からは上級は AVCE (Advanced Vocational Certificate of Education) とよばれるようになった。

⁷ Learning and Skills Development Agency (2001) *Taking Part One GNVQ Forward*, p.8.

ここで述べた特徴は、6ユニットの GNVQ にも共通するものである。

⁸ 当初は「科学」についても実施が予定されていた。

⁹ 最初の授業は 2002 年 9 月に開始され、2004 年の夏に最初の証書が発行された。本資格は、「職業 GCSE (vocational GCSEs)」もしくは「応用 GCSE (applied GCSEs)」とよばれることもある。

¹⁰ Qualifications and Curriculum Authority (2003 a) *GNVQ Withdrawal—Phase one report: Features of successor provision and implementation issues*, p. 3.

¹¹ 詳しくは、QCA (2005 a) *GNVQ Withdrawal (final update)*を参照のこと。

¹² Blunkett, D., ‘New Vocational GCSEs to Raise Standards’ (DfEE Press Notice), 6 July 2000. (http://www.dfes.gov.uk/pns/DisplayPN.cgi?pn_id=2000_0313)

¹³ Qualifications and Curriculum Authority (2003 a), op., cit., p. 5.

¹⁴ Ogunleye, J. (2007) ‘A Review of UK Government Policy Papers on 14-19 Education and Training between 1996 and 2006’, *Middlesex University Occasional Papers in Education & Lifelong Learning*, Vol. 1, No. 1, p. 72.

¹⁵ IFP プログラムのもとで、キーステージ 4 の生徒は、週に 2 時間まで継続教育カレッジにおいて授業を受けることができる。

¹⁶ Ibid., p. 73.

¹⁷ Department for Education and Skills (2004) *Department for Education and Skills: Five Year Strategy for Children and Learners*, p. 68.

¹⁸ Ibid., p. 68.

¹⁹ Ibid., p. 69.

²⁰ Ibid., p. 69, 71.

²¹ Ibid., p. 78.

²² Ibid., p. 72.

²³ Ibid., p. 71.

²⁴ Department for Education and Skills (2003 b) *GCSEs in Vocational Subjects: A general guide and overview of the qualifications*, section of ‘Purpose’, Department for Education and Skills (2003 c) *GCSEs in Vocational Subjects: An introduction to links between careers education and guidance and the teaching and learning of young people who are taking GCSEs in vocational subjects*, section of ‘Purpose of the GCSEs in Vocational Subjects’, Department for Education and Skills (2003 d) *GCSEs in Vocational Subjects: An introduction for students and their parents/carers to the GCSEs in vocational subjects*, section of ‘Why Choose the GCSEs in Vocational Subjects?’, and Department for Education and Skills (2003 e) *GCSEs in Vocational Subjects: An employers’ guide and overview of the qualifications*, section of ‘Purpose of the Qualifications’.

²⁵ Department for Education and Skills (2003 b), op. cit., section of ‘Introduction’.

²⁶ Department for Education and Skills (2003 b), op. cit., section of ‘Qualification Design’, and Department for Education and Skills (2003 c), op. cit., section of ‘Careers Guidance for Students Considering the GCSEs in Vocational Subjects’.

²⁷ Department for Education and Skills (2003 a), op. cit., section of ‘Qualification Design’. ただし、この点は「全国基準」(national criteria)などによって規定されているわけではなく、実際は 1.5 倍ほどの時間配分となっているようである (Qualifications and Curriculum Authority (2006) *Report on Vocational Learning provision at key stage 4*, p. 26.)。なお、通常、1 つの科目の資格取得 (single award) には、カリキュラムのおよそ 10% が配分されるといわれている。 (‘Using GCSEs in vocational subjects within the key stage 4 curriculum’ http://www.qca.org.uk/14-19/6th-form-schools/68_264.htm).

²⁸ 「建造環境 (built environment)」とは、例えば都市空間においては、ある建物に加え、その周りに存在し共に機能しているインフラなども含めた総体としての環境を指す。

²⁹ Edexcel においては、現在、試行的に「建築と建造環境」が実施されている。

³⁰ Department for Education and Skills (2003 b), op. cit., section of ‘How are the GCSEs in

Vocational Subjects Taught?」.

³¹ specification (「仕様」) を指す。

³² 評価の妥当性・信頼性の確保のため、学校における内部評価は外部からのチェックが行われる。

³³ 学校において評価され、資格付与団体によってモデレーションが行われる。

³⁴ Department for Education and Skills (2003 d), op. cit., section of 'Where Might the GCSEs in Vocational Subjects Lead?'.

³⁵ 代替資格の特定に関する取り組みについての詳細は、QCA (2003 a), op. cit., pp. 10-12. を参照のこと。

³⁶ Qualifications and Curriculum Authority (2005 b) *GNVQ Successor Provision: alternative qualifications (final update)*などを参照のこと。

³⁷ 'GNVQ Withdrawal Questions and Answers (updated October 2005)'

(http://www.qca.org.uk/qca_6321.aspx)

³⁸ 'GNVQ Withdrawal: information for employers'

(http://www.qca.org.uk/qca_6323.aspx)

³⁹ Qualifications and Curriculum Authority (2005 a), op. cit., section of 'Alternative Provision'.

⁴⁰ GNVQ 廃止の初期段階において、特にこの点が重要視されていた (Qualifications and Curriculum Authority (2003 a), op. cit., p. 3.)。

⁴¹ 'GNVQ Withdrawal Questions and Answers (updated October 2005)'

(http://www.qca.org.uk/qca_6321.aspx)

⁴² 'Using Alternatives to GNVQs'

(http://www.qca.org.uk/14-19/11-16-schools/index_1179.htm)

⁴³ 'Using Alternatives to GNVQs'

(http://www.qca.org.uk/14-19/11-16-schools/index_1179.htm)

⁴⁴ 'Progression Routes' (<http://gnvq.edexcel.org.uk/home/pogression/>)

⁴⁵ 科目に対応したものについては、以下のサイトから pdf ファイルを入手することができる。

(<http://gnvq.edexcel.org.uk/home/progression/>)

また、キーステージ 4 におけるルートの例については、以下の URL を参照のこと。

(<http://gnvq.edexcel.org.uk/home/curric-model/>)

この他にも、カリキュラムに関する資料として、例えば、Edexcel (2005) *Alternative Qualifications to GNVQ—Filling the gap* などがある。

⁴⁶ 教授の質について優と評価された授業の割合は、従来の GCSE の科目の割合に近い。

⁴⁷ Office for Standards in Education (2003) *Developing New Vocational Pathways: Interim report on the introduction of the new GCSEs*, pp. 4-5.

⁴⁸ Ibid., p. 5.

⁴⁹ Ipsos MORI (2006) *GCSEs in Vocational Subjects (Final Report)*.

⁵⁰ Ibid., pp. 7-9.

⁵¹ Ibid., p. 31.

⁵² Qualifications and Curriculum Authority (2007) *A Review of GCSEs in Vocational Subjects*.

⁵³ 'a Cambridge Assessment report on performance in GCSE examinations in vocational subjects 2004-5' and 'a Report by Ipsos MORI on teachers' perspectives of GCSEs in vocational subjects'

⁵⁴ Qualifications and Curriculum Authority (2007), op., cit., p. 2.

⁵⁵ Ibid., p. 3.

⁵⁶ Ibid., p. 2 and 4.

⁵⁷ Qualifications and Curriculum Authority (2006), op. cit., p.37.

⁵⁸ Ibid., p. 7.

⁵⁹ Ibid., p. 31.

⁶⁰ Ibid., p. 31.

-
- ⁶¹ Edexcel (2000) *Intermediate GNVQ—Business*, and Edexcel (2005) *Edexcel GCSE in Applied Business (Double Award) (2306)*.
- ⁶² Ibid., p. 5.
- ⁶³ Ibid., p. 6.
- ⁶⁴ Ibid., p. 7.
- ⁶⁵ Qualifications and Curriculum Authority (2006), op. cit., p. 32.
- ⁶⁶ Ibid., p. 25.
- ⁶⁷ Department for Education and Skills (2003 a), op. cit., section of ‘Qualification Design’.
- ⁶⁸ Department for Education and Skills (2003 d), op. cit., section of ‘What Do the GCSEs in Vocational Subjects Involve?’.
- ⁶⁹ Qualifications and Curriculum Authority (2006), op. cit., p. 6.
- ⁷⁰ Anastasia de Waal (2008) *School Improvement or the ‘Equivalent’*, p. 2.
- ⁷¹ Ibid., p. 2.
- ⁷² Ibid., p. 17.
- ⁷³ Ibid., pp. 14-15.
- ⁷⁴ Ibid., p. 16.
- ⁷⁵ Ibid., p. 6.
- ⁷⁶ Ibid., pp. 18-19.
- ⁷⁷ Qualifications and Curriculum Authority (2003 a), op. cit., p. 4.
- ⁷⁸ Qualifications and Curriculum Authority (2006), op. cit., p. 8.
- ⁷⁹ Department for Education and Skills (2003 d), op. cit., section of ‘What Else Should We Consider?’.
- ⁸⁰ Qualifications and Curriculum Authority (2006), op. cit., p. 31.
- ⁸¹ 継続教育カレッジとの協働とは、例えば、カレッジによる特定のトピックもしくはユニットの教授や職員の開発支援などが挙げられる。 (‘Using GCSEs in vocational subjects within the key stage 4 curriculum’ http://www.qca.org.uk/14-19/6th-form-schools/68_264.htm)
- ⁸² Qualifications and Curriculum Authority (2006), op. cit., p. 14.
- ⁸³ Ipsos MORI, op. cit., p. 31.
- ⁸⁴ Anthea Lipsett, ‘Leaving age for new pupils will be 17’, guardian.co.uk, Wednesday September 03 2008.

A Study of Characteristics of the GCSEs in Vocational Subjects

Naohiro Iida

This paper explains the policy background of the introduction of the GCSEs in vocational subjects in England, and examines the differences of characteristics between Part One GNVQs and the GCSEs in vocational subjects.

In 1992, the GNVQs were newly introduced with its great interest in vocational education and training. This qualification was designed to raise the number of vocational qualification takers, to change relative low status of vocational qualifications, and to realize parity of esteem between academic and vocational qualifications.

After abolishing Part One GNVQs, in 2002 the GCSEs vocational subjects were introduced by the Labor government. As well as the Conservative government in 1990s, the Labor government tried to raise the number of vocational qualifications takers. The government has gradually increased the number of vocational subjects, and at the present 9 subjects exist.

However there is a question about the difference between Part One GNVQs and the GCSEs in vocational subjects. The following are the main findings of this paper.

Firstly, there is not great difference between Part One GNVQs and the GCSEs in vocational subjects when it comes to political context. However, the GCSEs in vocational subjects shift toward academic characteristics compared with other vocational qualifications. In other words, the GCSEs in vocational subjects include lots of theoretical study at classroom. The academic aspect of the GCSEs in vocational subjects seems to mean the intense of the government that the GCSEs in vocational subjects can take secondary students up to universities which require students' academic achievement.

Secondly, up to date, there has been some problems of the practice of the GCSEs in vocational subjects. The CIVITAS, a think tank of the Conservative government, has pointed out that the GCSEs in vocational subjects don't have effects on improving students' learning skill and narrow students' opportunity. In addition, although the GCSEs vocational subjects have academic aspect, its ambiguous characteristic does not successfully fulfill the requirements of vocational and practical characteristics.

Finally, the author pointed out other possible problems of this qualification. They include unclear position against the Diplomas which was newly introduced, coursework burden for students, harmful effect of early selection and unequal regional resource.